第 132 回　『わかるように伝えていますか』

香川大学教育学部　特別支援教育領域　教授
香川大学教育学部附属幼稚園，園長
香川大学学生支援センター　バリアフリー支援室　室長
坂井　聡

特別支援教育における二つの観点

ここまで、特別支援教育における ICT 導入の際の重要な視点について述べてきました。これらを踏まえた上で、忘れてはならない観点があると思います。一つは、教科指導に関連することです。つまり、教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするための ICT 活用の観点です。もう一つは、子ども自身のことに関連する物で、その子どもの苦手なことが顕在化することによる学習上の困難や生活上の困難さを改善・克服するための ICT 活用の観点です。

教科指導の観点からは、パソコンやタブレットを活用したデジタル教科書とデジタル教材の組み合わせやパソコンを使ったテレビ会議システムの利用が考えられます。デジタル教科書では、前回の内容で述べたように、文字色・背景色の変更の機能は、白い背景に黒の文字で書かれている教科書では読みにくいという子どもには有効だろうと思われます。また、漢字の読みができない子どもの場合には、ふりがなを表示させる機能は有効になると考えられます。その他にもリフロー表示機能、音声読み上げ（機械音声）の機能が活用できるでしょう。文字を読むことに困難がある子どもの場合は、デジタル教科書の読み上げ機能を活用することで、教科書の内容にアクセスすることができるようになることがあるでしょう。また、デジタル教科書にはその学習内容に子どもが興味をもつような機能が用意されているので、それらを活用することで、授業の内容に興味をもつことができる子どももいるのではないでしょうか。これらの機能は直接、教科指導の効果を高めることにつながると考えられるのです。

もう一つ忘れてはならないのは、障害による学習上の困難や生活上の困難を改善・克服するという観点です。特別な支援を必要とする子どもたちの中には、みなさんもご存じの通り、記憶するのが苦手、書くのが苦手、話すことが苦手、読むことが苦手、聞くことが苦手等様々な困難さのある子どもたちがいます。原因はそれぞれ違うかもしれないのですが、苦手なことは同じです。たとえば、聞き手を骨折している子どもの場合、ノートを取ることができにくいでしょう。原因は違いますが、書字に障害のある子どもの場合もノートを取ることができにくいでしょう。この苦手なことを改善・克服するために、ICT を活用するという視点が必要だと言うことです。ICT を活用してその困難さを解決するための方法を子どもに提案するということです。

特に、知的障害のある子どもたちへの指導では、視覚的な支援を活用した指導が行われるようになってきています。このような指導を考えるとき、ICT のカメラの機能や画面に情報を表示させる機能は効果的でしょう。絵カードや写真カードなどで作っていたものが、その場で撮影するだけで、視覚的な支援として活用することができるようになるからです。そしてこの場合、指導者がそれを活用して指導するという発想ではなく、対象となる子どもがそれらを使って課題を解決できるようにするという発想も必要です。本人が使いこなせるようにするという考え方です。メモを取ることができなかった子どもが、写真機能を使ってメモが取れるようにと考えるのです。連絡帳も写真で撮って帰ればよいのです。おしゃれでかっこいい ICT 機器を自ら操作し、課題を解決しながら生活できるようにしていくという発想をもつということが欠かせないのです。

～坂井聡先生の紹介～

（（プロフィール））

香川大学教育学部卒業　金沢大学大学院教育学研究科修了　香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域　教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。